

人間学会 ニュースレター

上智人間学会
2017年3月21日発行

1. 第45回大会のご案内
2. 研究発表・紀要原稿の募集について
3. 第44回大会報告記
4. 役員会・事務局からのお知らせ

1. 第45回大会のご案内

次回大会につきまして、役員会で協議した結果、下記の要領で開催することに決定いたしましたので、ご案内申し上げます。

期日：2017年9月1日（金）・2日（土）

場所：ノートルダム清心女子大学（岡山市）

テーマ：受苦の人間学

V. フランクルが述べたように、人間はその本質において「受苦」する存在 (Homo patiens) です。私たちは人生のその時々直面する苦痛や恐怖だけでなく、失った過去を嘆き、未だ訪れていない将来への不安におののく、といった複雑な「苦悩」の中を生きなければなりません。しかしそうした「受苦」を通じてこそ、人は生きることの意義に目覚め、また人格としての成熟に招かれるのだと考えられます。

その一方で、苛酷な苦しみの美化や、他者の苦悩への無関心は、人間性を深く傷つけるような「暴力」の肯定に結びつく、危険な兆候と言えます。ゆえに「受苦」という存在様式は、いつも同時に「かかわり」の視点において、捉え直されるべきものではないでしょうか。

今回の大会では、苦悩を通じて自己を見つめ、他者に寄り添う人間の姿と、その使命について、様々な観点から、ご一緒に考えてまいりたいと存じます。

皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

2. 研究発表・紀要原稿の募集について

☆第45回大会研究発表の募集

上記の大会テーマを共通課題として、研究発表を募集いたします。(質疑をのぞき25分程度)
なお、研究発表は他に発表したことのないもので、人間学に関係した内容に限ります。

【発表応募締切】

所定の申込用紙に記入の上、

2017年5月12日(金)必着で事務局へお送り下さい。

【発表応募に対する回答通知】

2017年6月初旬までに、応募に対する回答通知を文書で本人宛に送付します。

【発表概要の事前提出期限】

大会研究発表の発表概要の提出期限は2017年8月28日(月)

A4版で3~5枚、原則としてワープロ作成

☆『人間学紀要』第47号論文の募集

2017年度紀要(2018年1月31日発行予定)の原稿を、下記の規定に基づき募集します。なお、2015年度より「原稿の提出」をもって論文の「応募」を受け付けることになりましたので、ご注意ください。論文は査読の上、掲載の可否を通知いたします。掲載可の場合でも、内容により加筆修正や掲載区分の変更などをお願いする場合があります点をご了承下さい。

【論文応募締切】

所定の申込用紙(7月発行ニュースレターに同封予定)に記入の上、原稿およびデータと合わせて

2017年9月29日(金)必着で事務局へお送り下さい。

【応募に対する回答通知】

2017年11月末までに、応募に対する回答通知を文書で本人宛に送付します。

【投稿規定】

- ・本学会会員に限る。
- ・他に発表したことのないもので、人間学と関わりのある新原稿であること。
- ・枚数は、論文は400字詰原稿用紙で40枚以内、研究ノートは同20枚以内(いずれも脚注を含む)相当とする。
- ・原稿は原則としてワープロ作成(A4版・40字×30行)とし、原稿提出の際、機種、執筆者を明記のCD-ROMまたはフロッピーディスク等も同封すること。
- ・図表等は必要最小限とし、そのまま印刷可能な状態のものを用意すること。
- ・原稿は所定の期日までに「上智人間学会事務局」宛に3部郵送すること。
- ・原稿には日本語表記に加えて、英文のタイトルおよび執筆者氏名を標記すること。
- ・原稿冒頭に掲載するため、400字以内の要約を添付すること。

3. 第44回大会報告記

去る2016年9月9日、10日の両日、上智大学7号館にて、第44回上智人間学会学術大会が開催されました。今回は「人間学とキリスト教」をテーマに、基調講演および8名の会員による研究発表が行われました。

基調講演では上智大学実践宗教学研究科教授の島藺進先生に「宗教と文学～近代人の自己理解とキリスト教」と題してお話いただきました。アンデルセンから説きおこされ、内村鑑三におけるグリーンワークという側面、さらには志賀直哉などを挙げながら、近代の日本人の自己理解にとってキリスト教という宗教が与えた影響の核心が「死生観」の問題にあることを、わかりやすく教えていただきました。当日の内容を『人間学紀要』第46号にご寄稿いただきましたので、ご覧下さい。

研究発表は、一日目に3名、二日目に6名の計9名で、共通テーマ「人間学とキリスト教」を中心として発表が行われました。（9日：宇野幸弘氏、中澤慎一氏、高倉節子氏、10日：吉田幸司氏、島村絵里子氏、原敬子氏、佐々木隆氏、AUGUSTINE Sali氏、吉川まみ氏）いずれもキリスト教的な人間理解の本質をめぐる深い問いかけを提起するもので、活発な質疑を呼びました。印象的だったのは、教皇フランシスコの回勅にも登場する「integral」という概念が、随所に飛び交っていたことでした。「人間学」は様々な分野の知識を人間の「生き方」へと統合する営みであり、キリスト教的な人間教育の本領も、まさにこのキーワードによって指し示されるように感じました。

一日目のプログラムに続いて総会、その後の懇親会では、会場をスクワール麹町に移して、なごやかな語らいの時間を過ごしました。（記：崎川）

4. 役員会・事務局からのお知らせ

★2017年の大会は、岡山市のノートルダム清心女子大学で開催する運びとなりました。岡山では、かつて1981年に岡山郵便貯金会館を会場として第9回大会を開催して以来36年ぶり、当大学での開催は初めてです。

★基調講演は、批評家の若松英輔先生にお願いしております。若松先生はカトリックの立場から、日本近現代の文学思想における霊性の問題を深く追求され、また人生の「悲しみ」「苦悩」に寄り添う、繊細な言葉によって編まれた随筆でも、多くの読者の共感を呼んでこられました。テーマ「受苦の人間学」にふさわしいご講演をいただけることと存じます。また、岡山はハンセン病に長く向き合ってきた歴史があります。現在、学会の前後に長島愛生園の見学ツアーの可能性を検討中です。詳細につきましては、追ってご案内申し上げます。

★2016年度総会において会長選挙が行われ、瀬本正之先生が再選されました。また、新たに役員会のメンバーとして、久保文彦先生（上智大学）、吉川まみ先生（上智大学）が加わることになりました。

★ニュースレターに掲載する「書評」や「著書紹介」、またエッセイや近況報告、お知らせなどの原稿も随時募集しております。ご希望の方は事務局までお問い合わせ下さい。

★ご逝去

ハイメ・カスタニエダ（上智大学名誉教授・イエズス会司祭）2017年1月22日、享年85歳

上智人間学会ホームページアドレス

<http://ningen-gakkai.org>

上智人間学会 役員会／事務局

会 長 瀬本 正之

事務局 （担当：田代奈津子）

幹 事 高山 貞美 崎川 修

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

会 計 武田なほみ 丹木博一

上智大学神学部（キリスト教人間学）事務室内

紀要編集 中村友太郎 崎川 修

TEL 03-3238-3529 FAX 03-3238-3945

久保 文彦 吉川 まみ

E-mail:theolo-2@sophia.ac.jp

会計監査 長島世津子 堀井 泰明